

# 教育センターニュース

四日市市教育委員会 教育支援課  
〒510-0085 四日市市識訪町2-2 (四日市市総合会館6階)  
TEL 354-8283 (代) FAX 359-0280

ホームページ <http://www.yokkaichi.ed.jp/e-center/>

教育支援課  
マスコットキャラクター  
しえん君



## 「不易と流行」

教育支援課 田中 重行

桜のつぼみを見つけた時や春一番の薫りで春の訪れを感じ、花吹雪や豊かな新緑を目の当たりにすることで春の終わりを感じています。しかし、季節の変わり目が早くなり、季節感が薄れてきています。時の速さに流されず、五感を働かせ昔ながらの季節の変化を受け止め、気づくことができる日本の季節感を大切にしていきたいと願っています。

さて、先日、書棚を整理していただきますと、「基礎学力」(昭和二八年初版)の本が出てきました。私が新採のころ先輩の先生から譲っていたいただいた本で、活字も旧字体で、懐かしい思いで読み返してみました。当時も基礎学力の低下現象が危惧され、「学力とは何か」が課題となっていました。当時の新しい学力観として、「知識の有無だけではなく知性が大切で、知

性とは困難や難関に直面した際に打開の方途を予見し洞察する働きである。」という内容が記述されていました。さらに、基礎学力の学習指導3Rs (読み・書き・計算)からはじまり能力別学習指導法など、現在にも通じる考えが記してありました。

昨今も、「学力の向上」から「問題解決能力の向上」「キャリア教育」「ICTの活用」「インクルーシブ教育システムの構築」等、様々な話題の枚挙にいとまがない状況です。昔から本質的に変わらない課題から、多様な時代の流れや要望からクローズアップしてくるものまで山積しています。

しかし、教育には「不易と流行」が大切であると言われるとおり、流行(時代の変化)に対応するためには不易(変わらない価値)なものを大切にし、不易なものの大

切にするには、時代の変化に敏感になることだと、改めて思っています。

教育へ注目が集まるなか、社会からは多様な変化への対応を求められています。私たちは、歴史の重みをしっかりと感じ受け止め、不易と流行を見極めながら、それぞれの役割を果たしていかなければいけないと考えています。

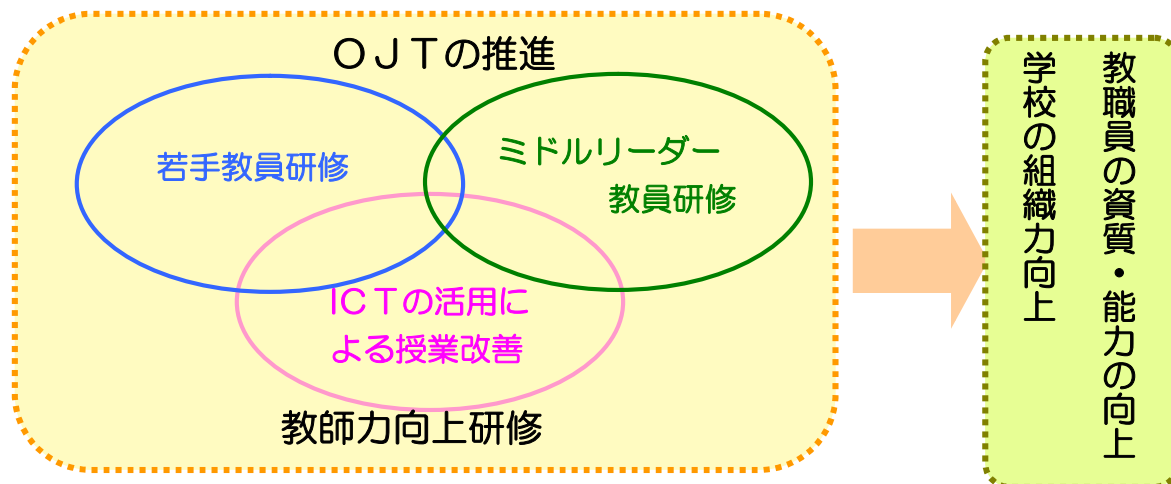




# 平成26年度 重点事業

## 教育支援課 研修・研究グループ

本市の学校教育ビジョンに基づき、今日的な教育課題に対応した研修を実施し、教職員の専門性と実践的指導力を高めるとともに、幅広い視野を備えた教職員の育成および資質・能力の向上を目指します。



### 1

#### 「教師力向上研修」の推進

- ① 「教師力向上研修」により一層の充実を図っていきます。今年度も、自己分析・自己研鑽・振り返りをスムーズに行い、全教職員の更なる資質・能力の向上を図るとともに、学校・園全体の教育力を高めます。
- ② 個人目標達成のための受講選択が容易になるよう、受講対象者や研修のねらいを明確にした**実践的な教職員研修講座**を実施します。
- ③ 各学校・園でのOJTを円滑にすすめるために、センターニュースやサポートメールを使って適時に**サポート情報を配信**します。

181講座  
197日

### 2

#### 若手教員やミドルリーダー教員の育成

- ① 初任から2年目の教諭及び1～2年目の講師を対象に、若手教員研修を実施します。若手教員の授業づくりや学級経営についての研修講座を充実させるとともに、初任者・若手教員への訪問支援を行います。
- ② 30～40歳代の教員を対象に、学校運営の要となるミドルリーダー教員研修を実施します。学校運営に役立つ研修講座を実施するとともに、若手教員の育成に携わる立場としての在り方について助言・支援します。

### 3

## 授業や校務へのICT活用の推進

- ① 各学校のICTコーディネーターを中心に、学校の実態や教職員のニーズに応じた「工夫のある校内研修」を支援します。また、各教科の授業等で児童生徒の実践的な情報活用能力と情報モラルの育成（情報教育）を図り、情報教育における教員の指導力向上のための研修を行っていきます。
- ② わかりやすい授業づくりや校務の効率化のためのICT活用を一層進めるために、より実践的なICT活用研修やICTコーディネーター研修等を実施します。若手教員を中心とした研修を行い、ICTを活用した授業づくりを通して、若手教員の授業力向上を目指し、市全体の教員の人材育成へとつなげていきます。

## 平成26年度 重点事業

### 教育支援課 特別支援教育・相談グループ



「途切れのない支援」を目指し、関係機関と連携しながら特別支援教育を推進していきます。発達障害等で困り感のある児童生徒とその保護者や教職員との教育相談を行い、不応状態の改善や不登校児童生徒の学校復帰を目指します。

## 1 校・園内特別支援教育推進体制の充実

- ☆ 校・園内委員会（含ケース会議）の定期的・計画的開催を目指します
- ☆ 「動く情報ツール」として、相談支援ファイル活用を進めます

「基礎的環境整備」や「合理的配慮」を考え、インクルーシブ教育システム構築に向け、校・園内における特別支援教育を一層充実させていくためには、校・園内委員会を効果的に機能させることが必要です。また、年々所有者が増えてきている相談支援ファイルについては、「動く情報ツール」としての活用が期待されています。校・園内コーディネーター担当者研修会を年3回実施し、校・園内委員会の運営方法や、相談支援ファイルの活用方法、個別指導計画の作成方法等の研修を通して、校・園内コーディネーターの資質向上を図ります。

## 2 巡回教育相談

- ☆ 要請のあった小学校へ巡回訪問します（臨床心理士 長谷川時三さん）

学校生活をおくる上で課題のある発達障害等の児童について、授業等の様子を観察した上で、支援の内容と方法を学校に助言します。また、不登校リスク群の児童についても、ケース会議に参加し、今後の方向性を先生方と共に考えます。

- ☆ 全中学校へ巡回訪問します（特別支援教育士スーパーバイザー小栗正幸さん）

全中学校に年間2回訪問します。発達障害等の生徒について、具体的な支援方法を助言します。

## 3

## 教育支援課での教育相談

☆不登校に関わる相談と発達等に課題のある子どもについての相談を受けています

不登校や心に悩み・不安のある子どもへの支援として、相談員やセラピストがカウンセリングやプレイセラピー等を行います。継続的な来所相談を経て、子どもの心のエネルギーが回復されたときには、小学生には「わくわく教室」を、中学生には「ふれあい教室」を勧めることがあります。

発達等に課題のある子どもや障害のある子どもへの支援として、来所相談や学校や園への巡回教育相談を行います。また、必要に応じて、諸検査を行ったり、教育支援課が委嘱している専門医と相談したりすることができます。



## 4

## 適応指導教室（わくわく教室，ふれあい教室）

適応指導教室は、学校に行かなければと思いつつも、登校できないでいる小中学生の子どもたちや、その保護者への支援をするところです。

小学生を対象とした「わくわく教室」では、集団活動を通して、友だちとの関わり方などを身につけていきます。中学生を対象とした「ふれあい教室」では、教育相談やカウンセリングを行った後、少集団による学習活動や体験活動を通して、子どもたちの学校復帰に向けての支援や、社会的自立を促す支援を行います。

## 5

## 四日市早期支援ネットワーク（YESnet）

YESnet (Yokkaichi Early intervention Service network) は、子どもたちの心の病気の早期発見・早期支援のために、教育委員会、保健所、医療機関がネットワークを結んで取り組んでいる事業です。



- 子どもに「こころの不調」のサインがみられたら、教育支援課まで相談してください。必要に応じて YESnet 連絡会議で事例検討を行い、具体的な支援の方法や医療等の連携の必要性について検討していきます。
- YESnet スタッフが学校へ出向いて、出前相談や子どもの心の病気について理解が深まるよう出前研修を行います。また、小中学生を対象に心の健康をテーマにした授業を行います。